

ミュージアムを支える人々 People supporting the museum

04

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、県の事務職員や研究員以外にも多くの関係者によって運営されています。このコーナーでは、インタビューを通じてミュージアムを支える人々の仕事や、その素顔を紹介していきます。



ミュージアムインタープリター

環境ボーイ?ニッシー

1961年大阪生まれ。京都外国語大学卒。1985年食品会社入社。製品開発業務で300製品を企画販売。食のプロ。開館以来インタープリターとして地球家族会議で新しいライフスタイルの創出に、お客様とともに取り組んでいる。

ミュージアムインタープリターとは

当館には、思考を拓く展示を展開するにあたり、ミュージアムインタープリター（展示交流員）が毎日活動しています。みなさまに地球環境リスクを解説した後、豊かな暮らし方のヒントを授けます。2018年度は総勢15名のミュージアムインタープリターが積極的に活動しています。

Q1 ミュージアムインタープリターとして、大切にしているものは何ですか？

A. 知識、経験はコミュニケーションによって皆の宝となります。単なる情報の伝達ではない、五感の刺激を求めて海山川の自然に親しみます。特に好きなのは未来を託す子供たちとの出会い。私は先生ではなく、ともに学び生きる人間であることを忘れずにコミュニケーションをとります。すると驚くような発見があり、学ばせてもらっていることに気づきます。コミュニケーションは相互の働きかけである。私にとって子供は小さな先生ですね。

Q2 ニッシーさんの研究・活動内容について教えてください。

A. 科学的な根拠に基づき食品の安全と、味覚、調理技術を追求することが生涯の研究テーマです。30年以上の業務に加え調理師として講座を開催しています。地球温暖化防止も環境省地球温暖化防止トップコミュニケーターとして発信を継続しています。また防災士、潜水士、応急手当普及員として自然災害、地域の安全と防災を研究しています。びく石宝さがし隊では、藤枝の里山をフィールドに子供たちと生物多様性や山川の地形なども研究しています。

Q3 ミュージアムの来館者数が20万人を達成し、地球家族会議も4,000回を達成しましたが、今後の意気込みを。

A. 数字の大小よりもそれだけ多くの人のかかわりがそこにある、ということでしょうね。ミュージアムが静岡に造られたということに大きな意義があります。自然と人間が共存する100年後の世界の実現、そして唯一完全な循環の成り立つ地球を持続可能な未来へとつなげていくことが私の使命です。ミュージアムで素晴らしい経験と出会いをいただきました。少年の心をもつ「環境ボーイ?ニッシー」として100年先?も活動していきたいですね。

個性豊かで子供に大人気のニッシーさん。「環境ボーイ?ニッシー」としての今後のご活躍に期待です。

——— 次回は、ミュージアムインタープリターの山根真智子さんです。

アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車でお越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください。)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ JR静岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚗 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル
- 【B-8乗り場から美和大谷線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車】

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行: ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

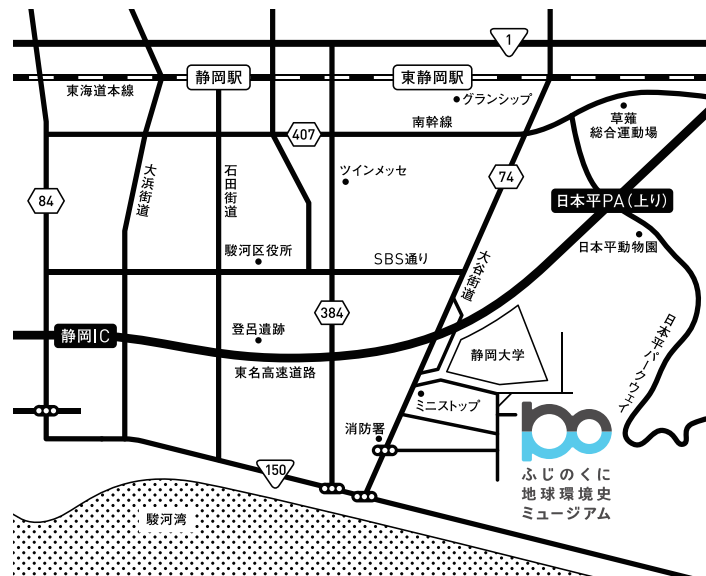
[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp

[ホームページ] www.fujimu100.jp

📱 https://twitter.com/fujinokuni_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

□来館者数20万人達成 □企画展・講演会 □ミュージアムダイアリー □ミュージアムを支える人々

[vol.011]



来館者20万人達成セレモニー

来館者20万人達成

2018年10月21日、ふじのくに地球環境史ミュージアムの来館者数が20万人に達しました。栄える20万人目のお客様となった静岡市にお住まいの川島さんご一家には、記念の花束とミュージアムオリジナルグッズが贈呈されました。

2016年3月に開館した当館は、廃校舎の教室にかつての学校什器を活用しながら、知的な刺激を与える空間デザインで、「思考を拓くミュージアム」を展開したことにより、これまで国内で4件、海外で7件のデザイン賞を獲得するなど、そのデザイン性に高い評価をいただきました。

また、館内では、自然史資料などの展示のほか、季節ごとに幼児から大人まで、各世代の皆様が楽しめる体験講座や講演会など、各種のイベントを開催しています。この館内イベントは、インタープリターやNPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク、ミュージアムサポーター、サービススタッフなど、日頃から館運営を支えてくださる関係の皆様と協働で行うことで、数多くのイベントが提供されています。

一方、館外では、伊豆や県東部あるいは西部地域など、当館に来館しにくい地域の小中学校を主体に、昆虫、化石などの自然史資料を出張展示する「ミュージアムキャラバン」を県内各地で展開しています。こうした日頃の取組の成果として、このたび20万人の節目を迎えることが出来たと感じています。これまでご来館いただいた皆様や関係者のご支援に感謝申し上げます。今後も引き続き、皆様に自然科学の世界を楽しんでいただけるよう、魅力ある展示や各種イベントを開催してまいります。

さて、12月1日からは、企画展「くらやみの覇者—駿河湾のサメにみる多様性と未来—」が始まります。「こわいのはサメかか」、この機会に考えてみませんか。

また、来年3月16日～17日には、グランシップを会場に「島嶼環境文明にみる地球の未来」をテーマとして、国際シンポジウムを開催しますので、皆様、是非お越しください。